

第2回世界エンジニアリングデーに際して

世界エンジニアリングデーは世界工学団体連盟（WFEO）が、創立 50 周年を迎えたことを契機に、エンジニアの活動を広く人々に認識してもらい、あわせて SDGs（持続可能な開発目標）の推進に貢献することをアピールする目的で WFEO の創立日の 3 月 4 日を記念日として制定したものです。本年は第 2 回目の記念日となります。昨年は第 1 回の記念行事が世界各国で企画されました。我が国でも、日本工学会が日本学術会議、日本工学アカデミーならびに関係学協会の協力を得て、記念シンポジウムを開催するべく準備をいたしました。しかしながら、皆様ご存知の通り世界的な新型コロナウイルス感染拡大のために一堂に会しての行事は中止とせざるを得なくなり、登壇予定者の皆様がご用意くださった資料をホームページ上で公開いたしました。

本年の世界エンジニアリングデーも世界的に新型コロナの影響は収まらない中迎えることとなり、参加者の方々に会場にお越しいただいて開催する状況にはありませんでした。ご登壇いただく先生方のみ会場にお越しいただき、ご聴講いただく方には Web でご参加をお願いする形式（ハイブリッド形式）でシンポジウムを開催させていただきました。

今年のテーマは「多様性と包摂性のある社会のための工学の未来」といたしました。第 1 部は「技術者の役割・未来」を、第 2 部は「未来を拓く工学」について、登壇者によるショートスピーチに続いてダイアログ形式で意見交換を行いました。ダイアログ形式としたのは、ダイアログとは、雑談でも、議論でもない自由な雰囲気で行われる、真剣な話し合いであり、相手の意見を尊重しつつ自分の意見との違いを認識して相互理解を深める創造的なコミュニケーションであるといわれていて、記念シンポジウムとしては相応しい形式ではないかと考えた次第です。多様性と包摂性のある社会のための工学の未来には様々な姿があり得ると思います。こういう不安定な時期だからこそ工学に求められる役割はより大きなものがあると認識しております。明るい未来に向かっての闊達な対話が本記念の日に行われるとともに、そのような対話の輪が広がることを期待しております。世界中の国々でも 100 を超える記念イベントが開催され、様々な形でエンジニアリングについて語られました。

日本工学会としては、来年度以降も世界エンジニアリングデーの記念行事等を通して、本会の活動をさらに充実させて参りたいと思いますので、引き続き関係各位のご協力、ご支援をお願いいたします。最後になりますが、後援をいただきましたユネスコならびに日本ユネスコ国内委員会、日本学術会議、日本アカデミーはじめ、協賛いただきました日本工学会会員学協会、維持会員各社などの関係各位に篤く御礼申し上げます。

日本工学会会長 岸本喜久雄

2021 年 3 月 4 日

